

大日本スクリーン製造株式会社 2014年3月期 決算説明会

2014年5月7日

代表取締役 取締役社長 兼 COO 垣内 永次

本日のアジェンダ

- ・ 2014年3月期 連結業績
- ・ 事業状況
- ・ 2015年3月期 連結業績予想
- ・ 新中期3カ年経営計画「Challenge2016」
- ・ 持株会社体制への移行

資料取り扱い上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2014年3月期
連結業績

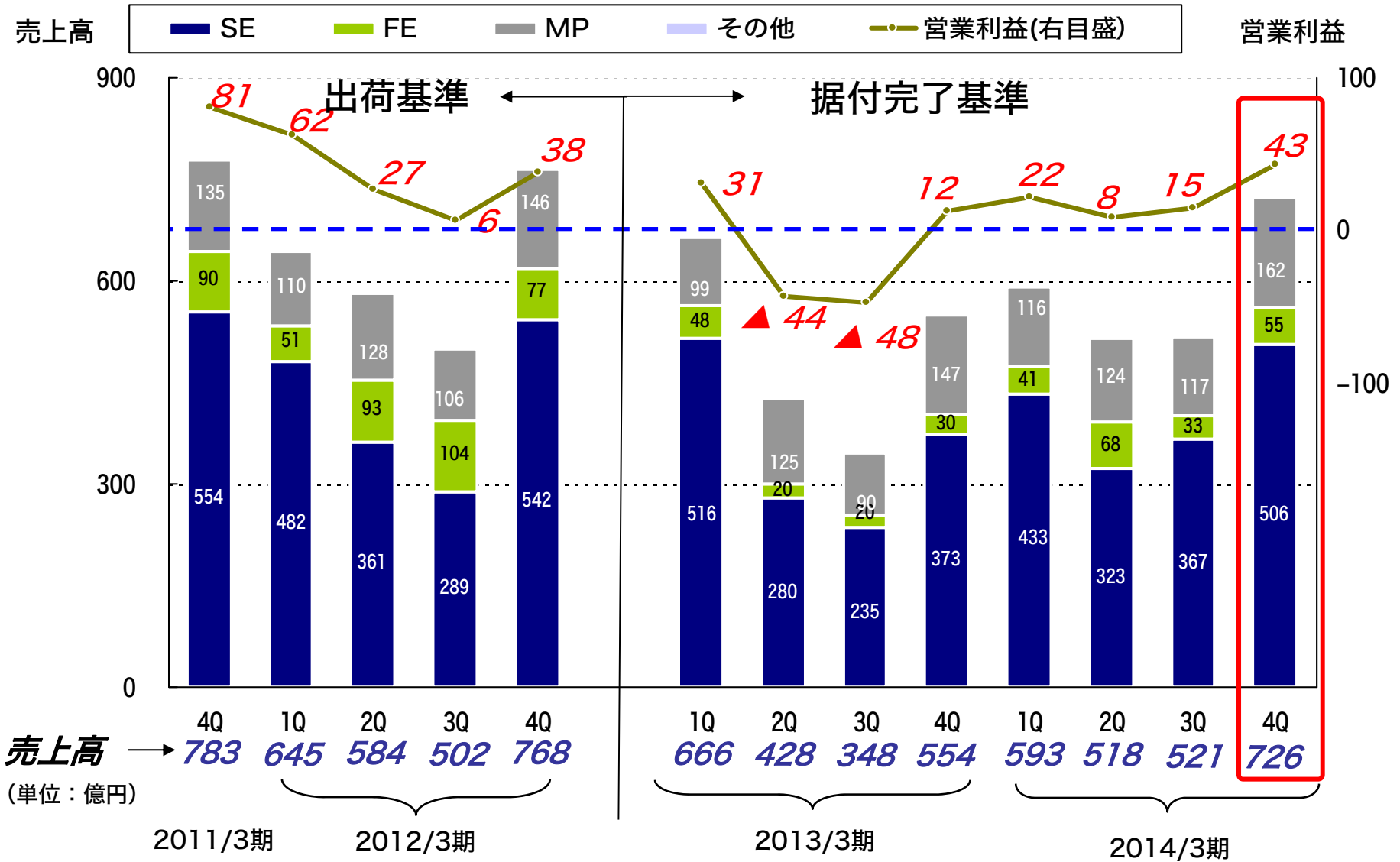
2014年3月期 連結業績結果

(単位：億円)	2013/3期	2014/3期						前期比	2/4予想	
	実績 (据付完了)	実績					前期比			2/4予想
	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期			通期
売上高	1,997	593	518	521	726	2,359	361	2,310		
SE	1,406	433	323	367	506	1,631	224	1,595		
FE	120	41	68	33	55	198	78	200		
MP	463	116	124	117	162	521	58	505		
印刷関連機器 (MT)	401	100	104	101	132	439	37	430		
プリント基板関連機器 (PE)	61	15	19	16	30	82	20	75		
その他(外部売上のみ)	7	1	2	2	2	8	0	10		
営業利益	▲ 48	22	8	15	43	89	137	90		
SE	▲ 37	21	7	18	39	87	125	-		
FE	▲ 8	1	▲ 1	▲ 2	▲ 1	▲ 4	4	-		
MP	14	4	5	4	12	27	12	-		
その他および調整額	▲ 17	▲ 4	▲ 4	▲ 5	▲ 7	▲ 22	▲ 4	-		
経常利益	▲ 50	22	3	14	43	83	134	82		
当期(四半期) 純利益	▲ 113	16	▲ 1	6	31	54	167	61		

*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

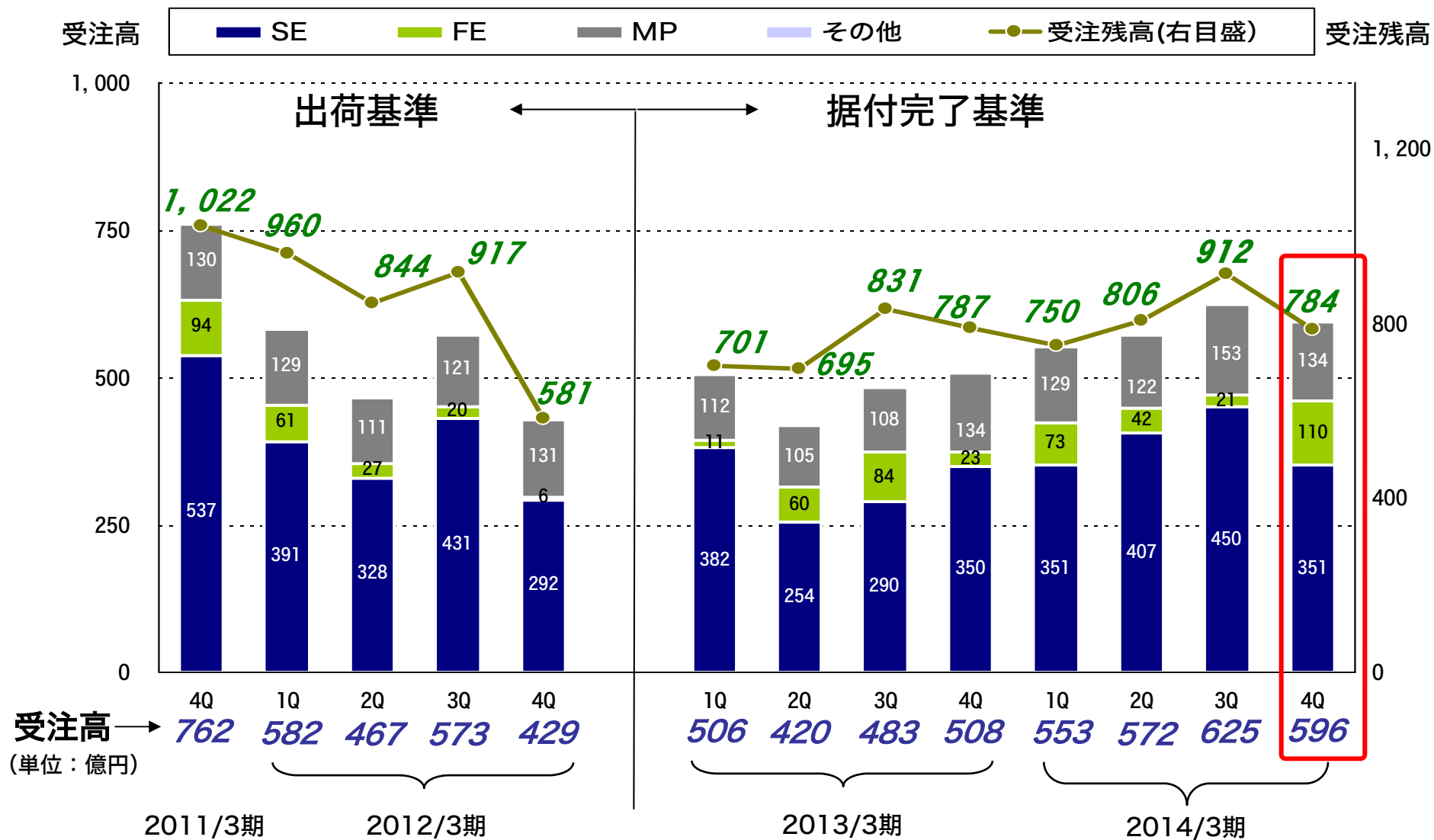
*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

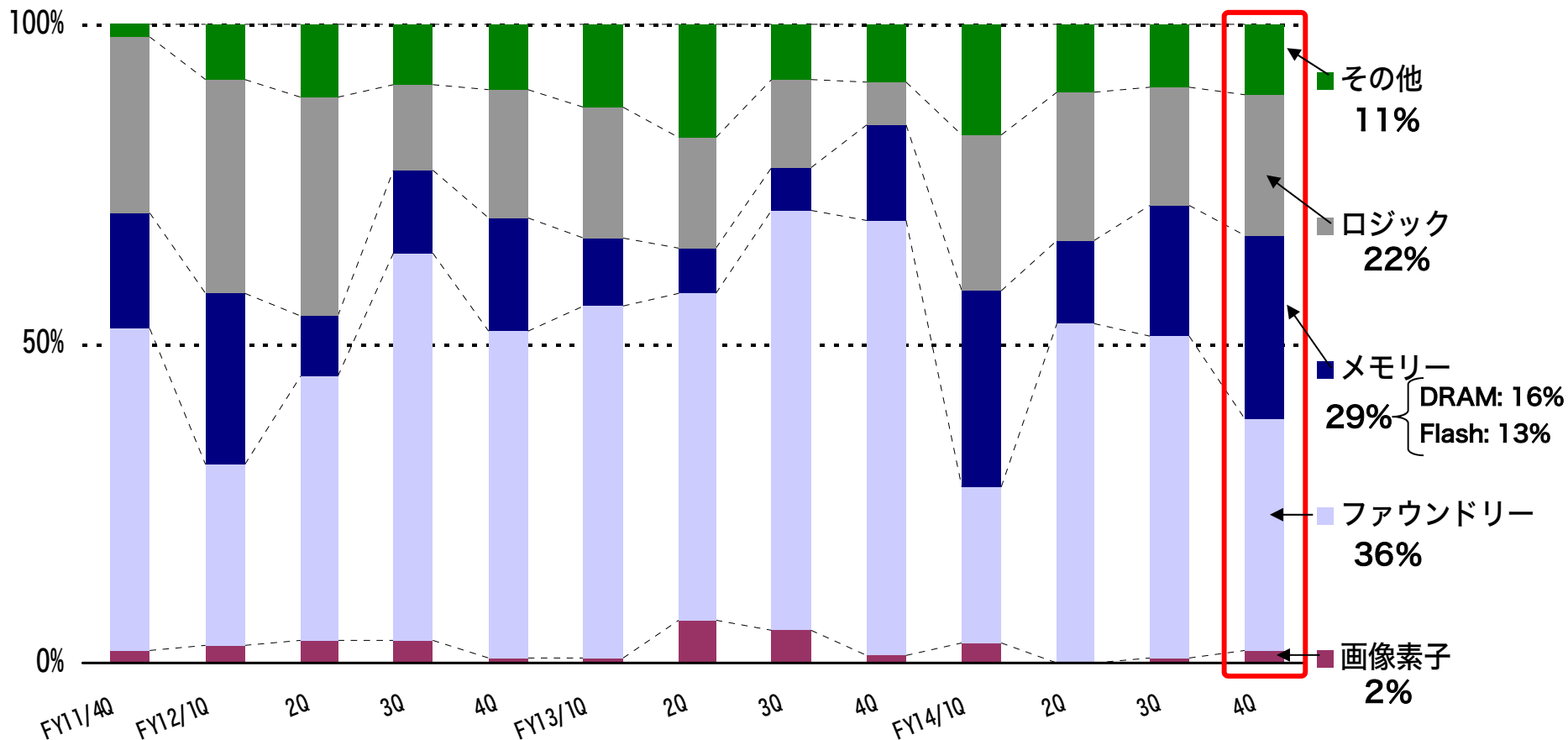
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



*2013年3月期SE、FEの受注残高は据付完了基準を遡及適用して記載しています。

<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➤ 4Q受注高 : 351 億円 (連結)



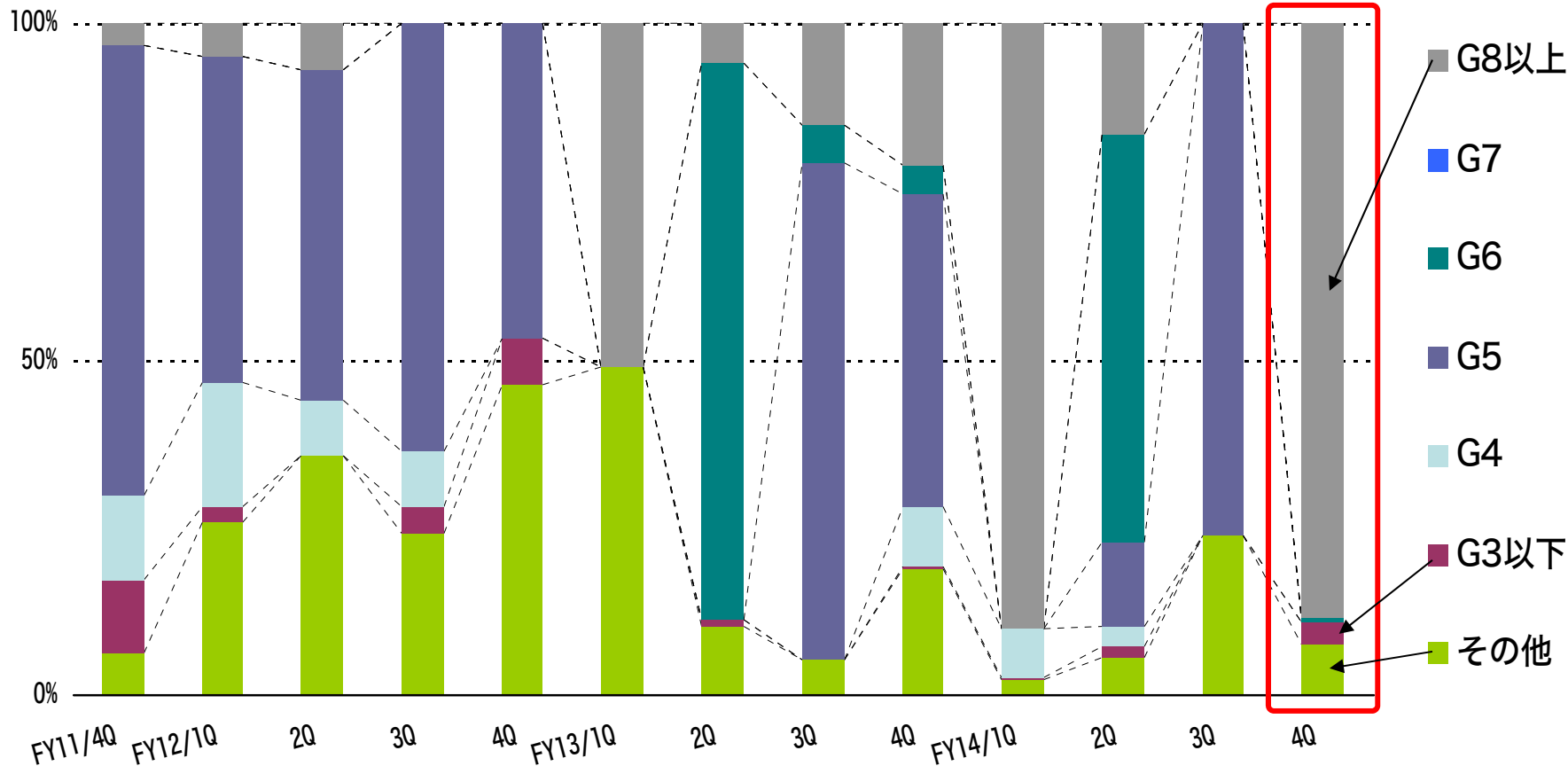
*FY12/2Qよりパーツをその他に含めている

地域別受注高 (単独)
2014年3月期
4Q 実績



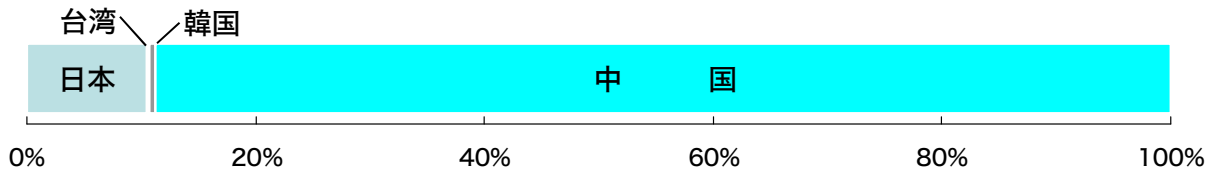
<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

➤ 4Q受注高 : 110 億円 (連結)



* FY12/4Qはグロスにて算出

地域別受注高 (単独)
2014年3月期
4Q 実績



貸借対照表 (連結)

資産

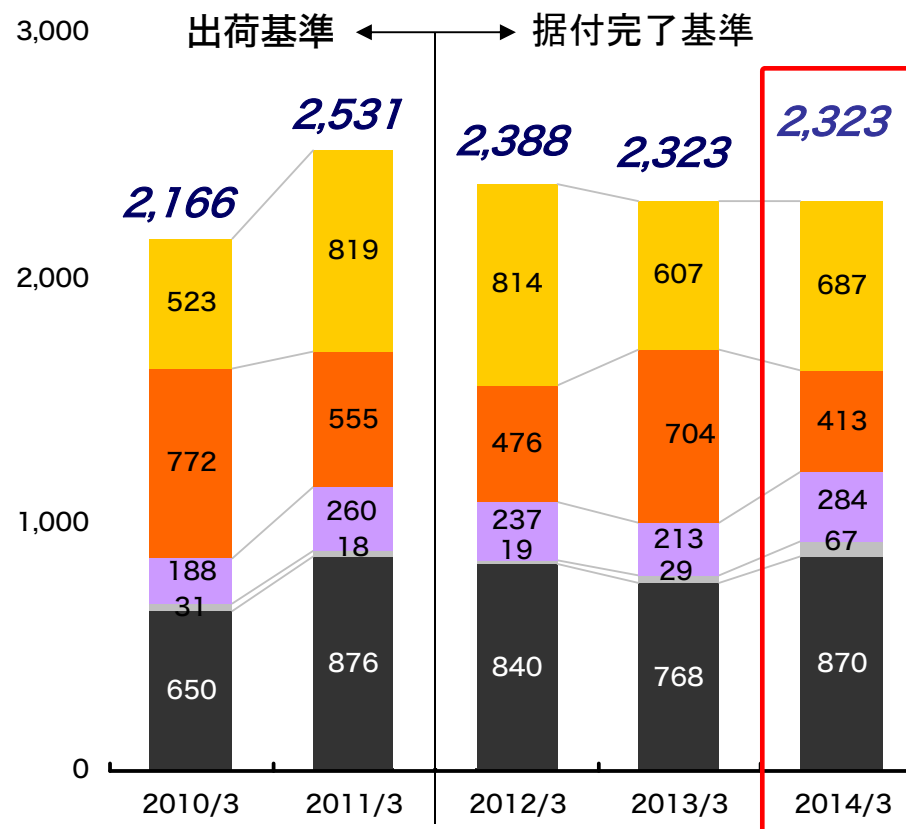
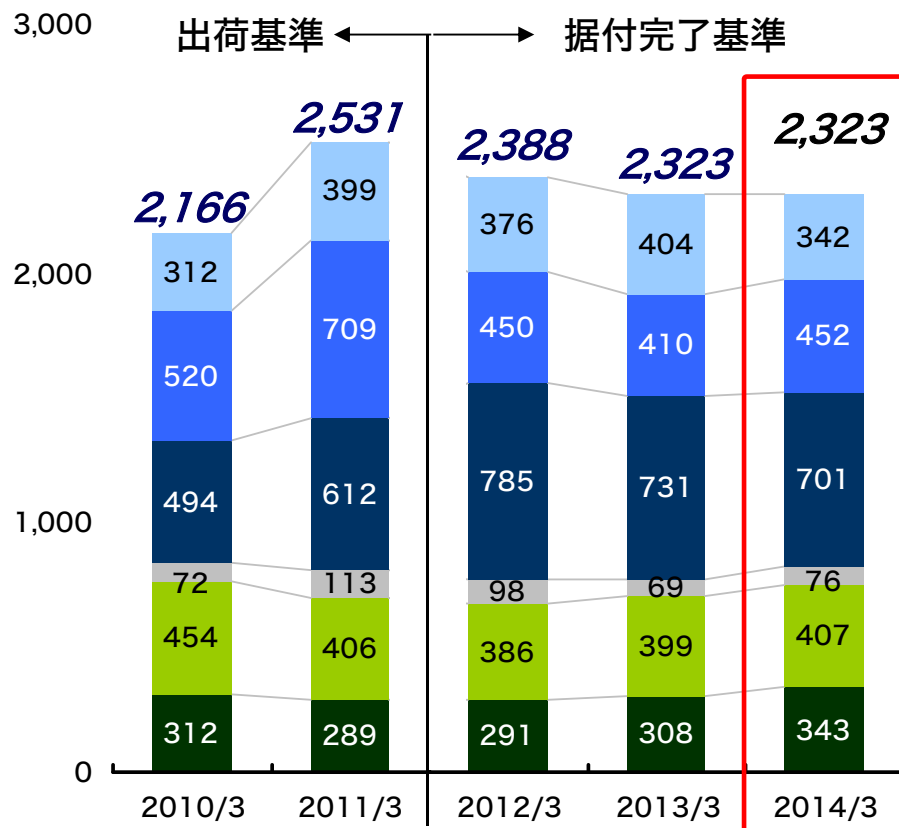
(単位：億円)

- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- たな卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 無形固定資産・投資ほか

負債および純資産

(単位：億円)

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産

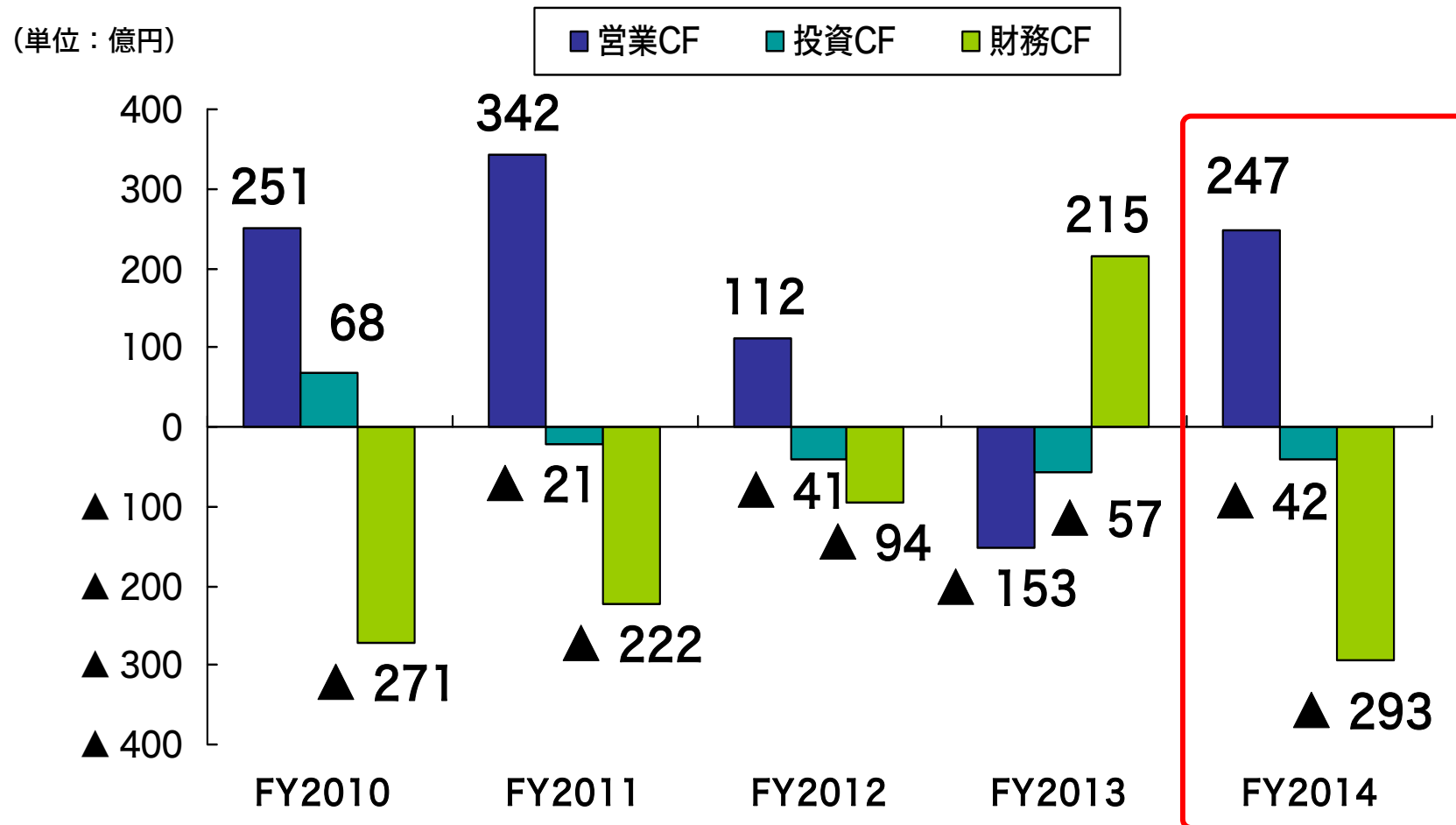


自己資本比率 32.8% (2013/3) → 37.2% (2014/3)

*2012/3、2013/3は据付完了基準を遡及適用して記載しています。

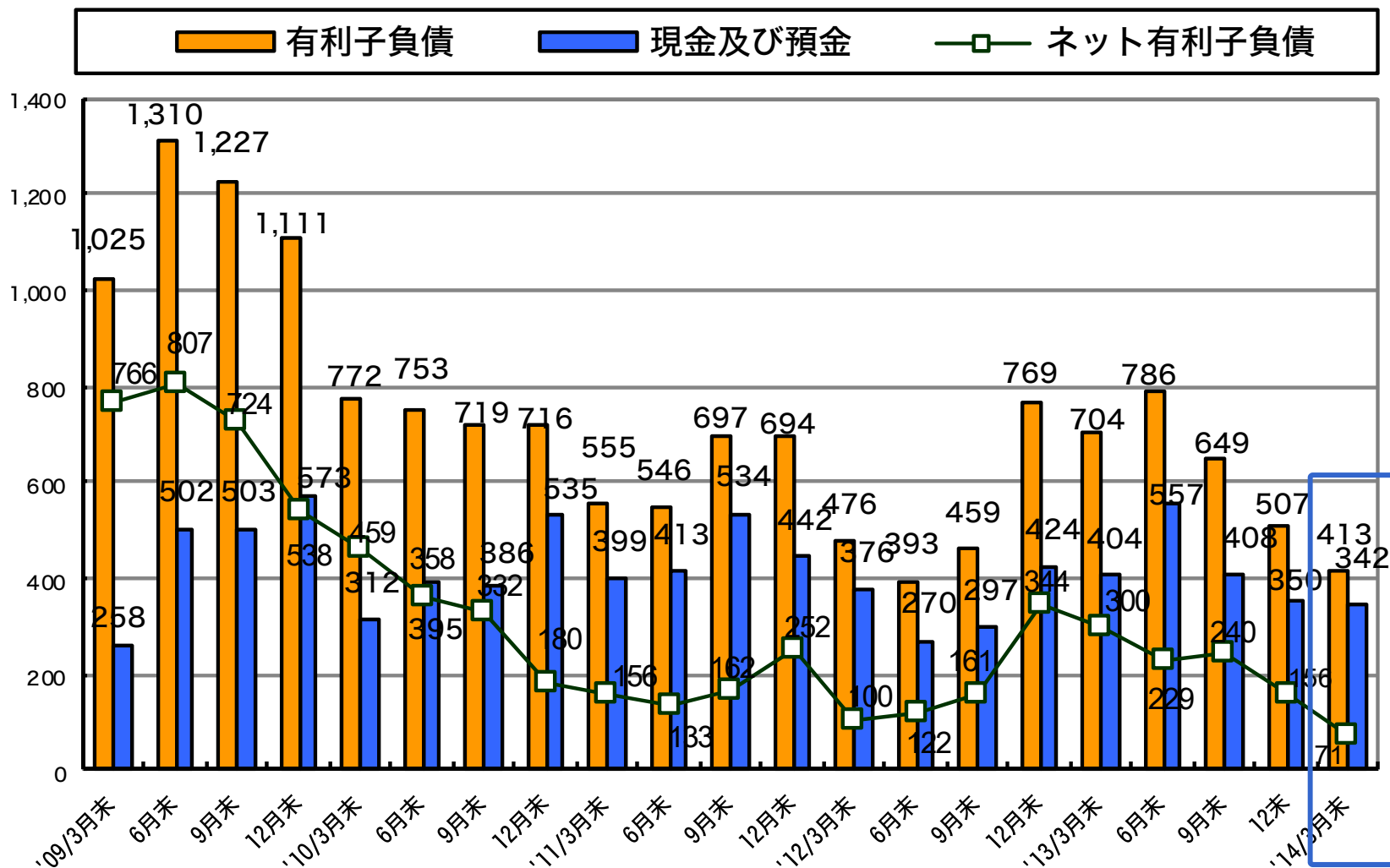
キャッシュ・フロー（連結）

通期累計フリーキャッシュ・フロー： 205億円



有利子負債推移 (連結)

(単位：億円)



事業状況

セグメント別事業状況

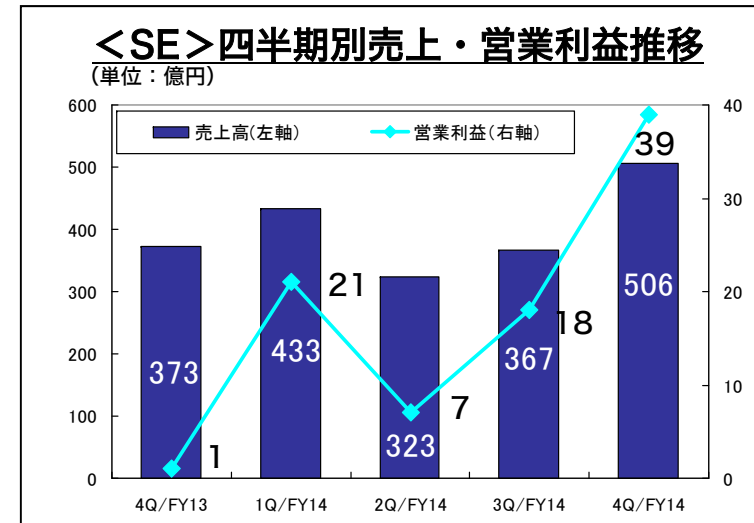
SE

4Qについて

- 売上は、ファウンドリー向けの洗浄装置（バッチ式、枚葉式ともに）がけん引
- 受注は投資時期の変更により、2月時予想を下回った
- 2013年（暦年）コーターデベロッパーのシェアアップ（前年比+5ポイント*）
枚葉式洗浄装置は高シェアを維持

2015年3月期について

- 足元受注状況より、上期売上は14/3期下期から減少
- ファウンドリーの先端投資が装置市場をけん引するとの見方に変化なし
- 3D化、FinFET、微細化、材料の多様化などの顧客ニーズに対応



*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

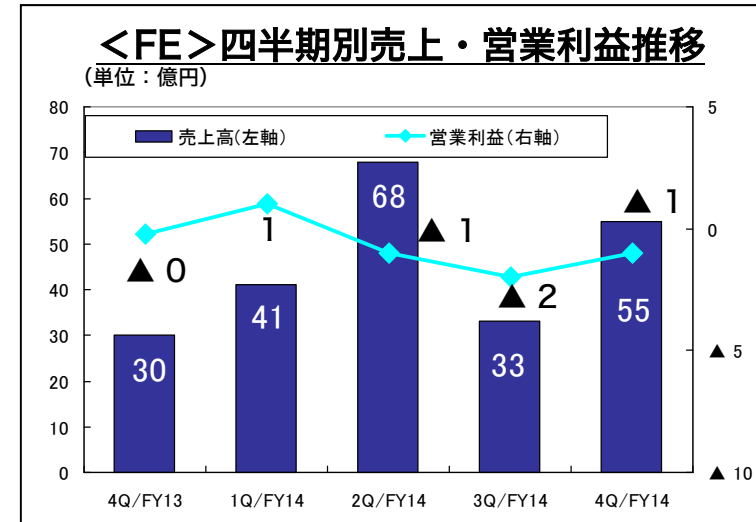
*出典：Gartner, "Market Share: Semiconductor Equipment, Worldwide, 2013" 31 March 2014
Revenue from Shipments of Photoresist Processing (Track), Worldwide

セグメント別事業状況

FE

4Qについて

- 売上、利益ともにおおむね2月時予想通り
- 受注は、中国案件により大幅に増加
- さらなる受注獲得に向け、大型商談進行中



*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

2015年3月期について

- 中国の液晶テレビ用投資により売上の増加を見込む
- 保有するコーティング技術（ウエット、ドライ）を活用し新規領域での売上拡大
- VE活動、海外調達などのコストダウン強化し、黒字化を目指す

セグメント別事業状況

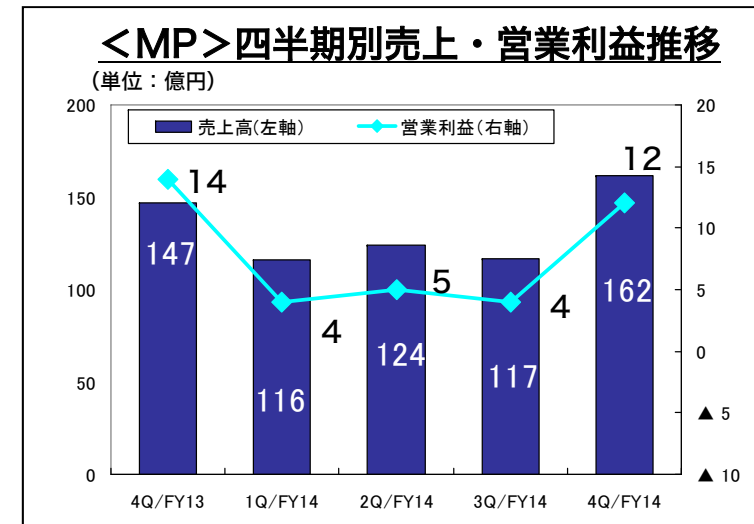
MP

4Qについて

- 売上は印刷関連、プリント基板関連ともに2月時予想を上回った（国内は消費税増税による駆け込み需要の影響あり）
- ラベル用PODも順調な立ち上がり

2015年3月期について

- 印刷：パッケージ業界向けに製品強化
- 印刷：CTPは新興国での拡大を図る
- プリント基板：新興国向けに直接描画装置の新製品投入
- プリント基板：タッチパネルの透明電極モニター装置を投入
- 両方：ポストセールスビジネスの高付加価値化



2015年3月期
連結業績予想

2015年3月期 連結業績予想

想定為替レート： 1米ドル= 100円、 1ユーロ= 135 円

(単位：億円)

	2014年3月期			2015年3月期		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想
売上高	1,111	1,248	2,359	1,080	1,280	2,360
SE	756	874	1,631	730	815	1,545
FE	109	88	198	85	180	265
MP	241	280	521	260	275	535
印刷関連機器 (MT)	205	233	439	223	237	460
プリント基板関連機器 (PE)	35	46	82	37	38	75
その他(外部売上のみ)	3	4	8	5	10	15
営業利益	30	58	89	35	65	100
SE	28	58	87	-	-	-
FE	0	▲ 4	▲ 4	-	-	-
MP	10	17	27	-	-	-
その他および調整額	▲ 8	▲ 13	▲ 22	-	-	-
経常利益	26	57	83	30	60	90
当期純利益	15	38	54	22	53	75

2015年3月期 年間配当金予想： 1株当たり5円 (期末配当金)

新中期3力年経営計画
「Challenge2016」
(2015年3月期～2017年3月期)

■前中期計画の概要（2012/3期～2014/3期）

基本方針：「収益構造の確立」「新たな成長への基盤づくり」

数値目標：

- ・自己資本比率50%、純有利子負債ゼロ（2014/3末）
- ・売上高8,000億円、営業利益700億円、
当期純利益500億円（P/Lはいずれも3カ年合計）

■外部環境

- ・パソコンからモバイルへ
- ・液晶装置市場の収縮加速
- ・お客さまの寡占化（SE,FE）
- ・欧州景気の回復遅れ（MP）

■内的要因

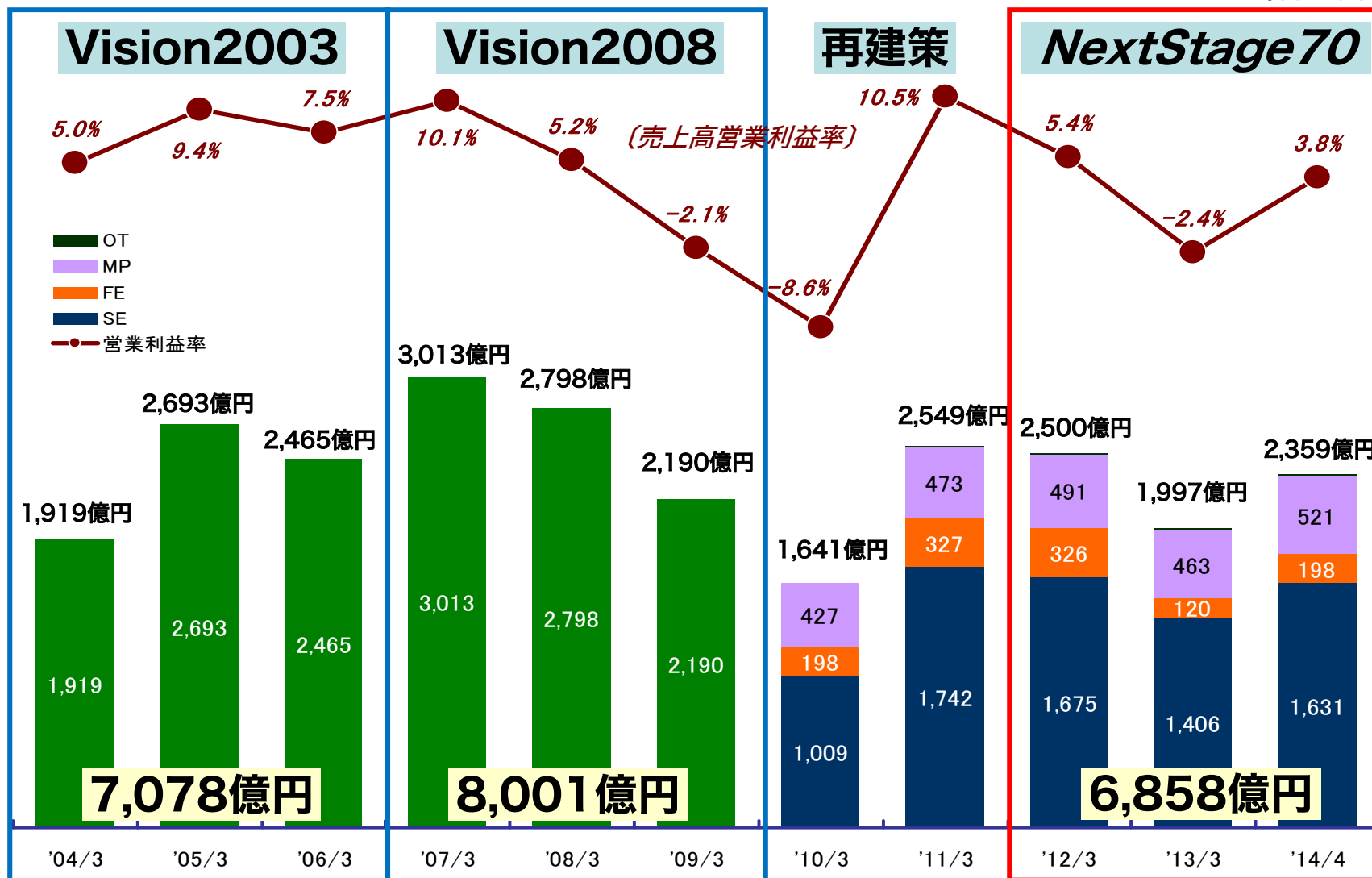
- ・市況下降時に赤字化（2013年3月期赤字）
- ・収益構造改革の未了
- ・新規分野の製品投入は進捗

■数値結果

- ・自己資本比率 37.2% 純有利子負債 71億円（2014/3末）
- ・売上高 6,858億円 営業利益 175億円 当期純利益 ▲12億円
（P/Lはいずれも3カ年合計）

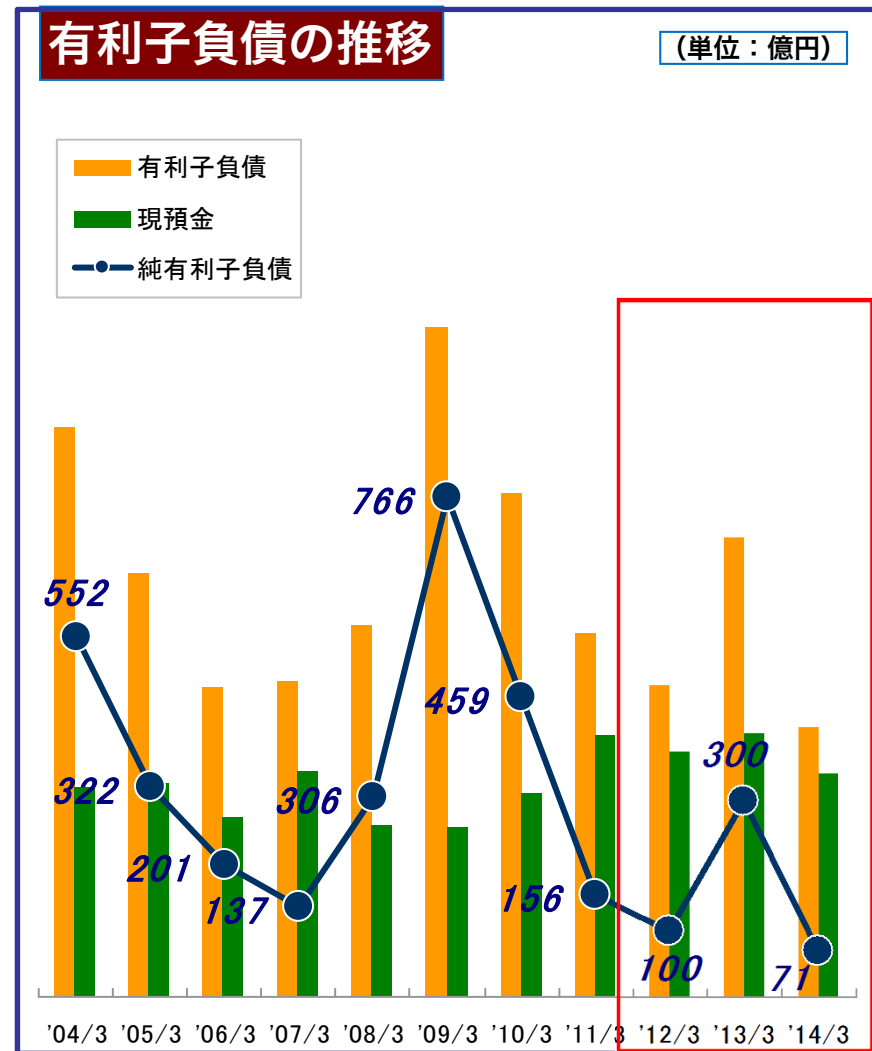
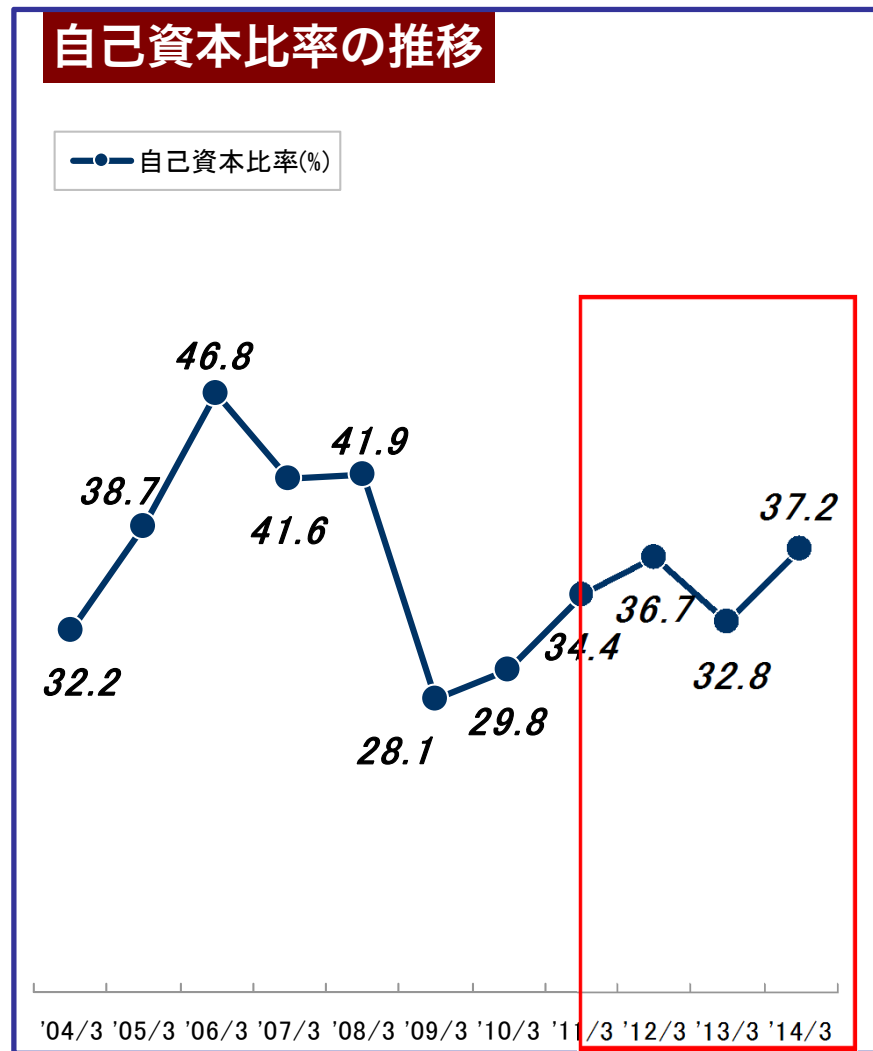
前中期3カ年経営計画「NextStage70」の振り返り②

(単位：億円)



*セグメント表記が '09/3期以前は異なるため、非区分。*13/3期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

前中期3カ年経営計画「NextStage70」の振り返り③



* 13/3期のSE、FEは、据付完了基準を遡及適用して記載しています。

1. 新中期3カ年経営計画の前提と方向性

■ 外的環境

- ・ リスク包含したマクロ経済成長
- ・ 自前主義 → コラボレーション
- ・ 既存事業における業界構造変化
(低価格化、寡占化、スピード化)

■ 自社課題

- ・ 収益構造改革の完遂
- ・ 新規領域へ事業拡大
- ・ 市場変動に耐えられる財務基盤

■ 目指すべき方向性

- ・ 高収益体質へ
- ・ 新規領域での事業化
- ・ 財務体質強化

2. 目標

■収益構造改革の完遂、高収益体質へ

- ・最終年度 営業利益率10%以上

■新規事業領域での事業化

- ・新規事業領域で、最終単年度 黒字化

- ・エネルギー分野
- ・検査計測分野
- ・ライフサイエンス分野
- ・プリントドエレクトロニクス分野

■財務体質の強化

- ・最終年度末 自己資本比率 50%以上

3. 基本方針

- 持株会社体制による収益力の強化
- 高収益事業ポートフォリオの構築
- バランスシート経営の推進
- CSR経営の推進

持株会社体制への移行

持株会社体制への移行

1. 目的

「Challenge2016」達成とさらなる成長

2. 内容

会社分割による純粹持株会社体制への移行

3. スケジュール

2014年 5月 7日	子会社設立(吸収分割承継会社)
2014年 6月26日	株主総会決議
2014年10月 1日	会社分割 (効力発生)

持株会社体制への移行イメージ図

3事業カンパニー、ビジネスサービスセンター(BSC)、製造本部を分社化し、持株会社体制に移行

